



## 【プログラム詳細】 ※以下敬称略

## ■13時 開会

主催者挨拶： 柄 博子（国際交流基金 理事）

後援者挨拶： 鈴木 英敬（三重県知事）

後援者挨拶： 森 智広（四日市市長）

企画趣旨説明： 田村 太郎（2018年度国際交流基金地球市民賞 選考委員、ダイバーシティ研究所 代表理事）

■13時15分 オープニングセッション（対談）

テーマ： 「多文化共生の必要性 三重県の取り組み」～異なる文化的背景を生かして一緒に築く地域社会～

登壇者： 鈴木 英敬（三重県知事）

藤沢 久美（2018年度国際交流基金地球市民賞 選考委員、シンクタンク・ソフィアバンク代表）

概要： 入管法改正に伴う三重県の現在（いま）と目指すべき社会に向けての今後の取り組みについて。

■13時45分 第1セッション「つなぐ人と組織をどう育てる？」

登壇者： 池田 誠（北海道国際交流センター 専務理事） [北海道]

堀 永乃（グローバル人財サポート浜松 代表理事） [静岡県]

八木 浩光（熊本市国際交流振興事業団事務局長） [熊本県]

モデレーター： 田村 太郎

概要： 日々の活動の中で、様々な立場の人々と、どうつながり、連携し、その関係を育てて行くのか。各地域で多文化共生の橋渡しとして活躍しているキーパーソンのお話を聞く。

■15時20分 第2セッション「壁をこえる、つながるアート」

登壇者： 堤 佳奈（三重県文化会館「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクト担当） [三重県]

横堀 ふみ（特定非営利活動法人 ダンスボックス プログラム・ディレクター） [兵庫県]

山野 真悟（認定非営利活動法人 黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長） [神奈川県]

モデレーター： 若林 朋子（プロジェクト・コーディネーター/プランナー、立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任教授、2018年度国際交流基金地球市民賞 選考委員）

概要： アートの長所である「ボーダーレス性」により、様々な立場の人々がどのようにつながって多文化共生等の社会課題に生かせるか、またアートがどのような影響を及ぼしているのか。様々な事例をもとに語り合う。

## ■16時40分 クロージングセッション

質疑応答、田村委員より総括

## ■17時 閉会

以上

【国際交流基金地球市民賞について】 <https://www.jpjf.go.jp/j/about/citizen/index.html>

国際交流基金地球市民賞は1985年に創設されました。全国各地で国際文化交流活動を通じて、日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える団体を顕彰する事業です。応募団体の対象活動は「文化芸術による地域づくりの推進」「多様な文化の共生の推進」「市民連携・国際相互理解の推進」の3分野で、自薦・他薦を問わず応募できます。今年度の応募締め切りは、2019年8月13日（※郵送の場合は当日消印有効）です。

## この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpjf.go.jp](mailto:press@jpjf.go.jp)

KUMAKURA

も。エく苦さいきの活地  
ピ、労だ！に生動域  
ソ心温け！来のすの  
ーまでくを人場  
ドるなだ聞々で